

### 鹿島灘はまぐりの資源状況

水産試験場では、鹿島灘に生息する二枚貝類の資源状況を把握するため、漁業指導調査船（今年度は用船）による採集調査を行っています。今年は、7～11月に大洗町大貫地先から神栖市波崎地先まで、約4km間隔で設定した16地先の距岸200～1,000mに合計59の定点を設け、調査を行いました。調査では調査用小型貝桁網（桁幅56cm、爪間隔24mm）を最大10分間曳網し、採集した二枚貝類は種別に個体数計数と、殻長・重量の計測を行いました。得られた曳網面積当たりのデータから、鹿島灘はまぐり（以下、はまぐり）の漁獲対象資源量を推定しました。

#### 鹿島灘はまぐり

##### - 資源個体数が減少 -

調査結果から、平成30年の推定資源個体数は約2,697万個であり、平成29年の推定値（3,784万個）から約3割減少しました（図1）。これは、資源の大部分を占める平成26年生まれのはまぐり（以下、H26年級）が漁獲等により減少し、今年漁獲サイズに達するH27年級の加入も少なかったためと考えられます。平成30年の推定資源重量は2,296トンであり、平成29年の推定値（2,440トン）と同程度でした（図1）。H26年級は成長に伴い1個あたりの重量が前年から約5割増加しているため、個体数は減少したものの、重量は横ばいとなりました。

採集されたはまぐりをみると、H26年級と推測される殻長80mm未満（50-75mm主体）の小型貝が多数確認されました（図2）。

地先別の分布密度をみると、特に平井や神栖市の松下～保護水面地先で小型貝の密度が高くなっており（図3）、これらは各地先の岸側（距岸200-300m、水深2-3m）に集中して分布していました。小型貝は昨年と比較すると殻長は10mm程度大きくなり、少しずつ沖側に分布域を変化させています。

H26年級は来年には80mmサイズに成長し、今後も漁獲の主体となります。はまぐり資源を効率的に長く利用していくためには、このH26年級資源の計画的な漁獲が必要となります。（定着性資源部 横山耕平）

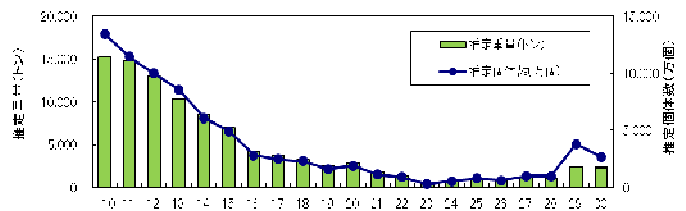


図1 鹿島灘はまぐりの推定漁獲対象資源量

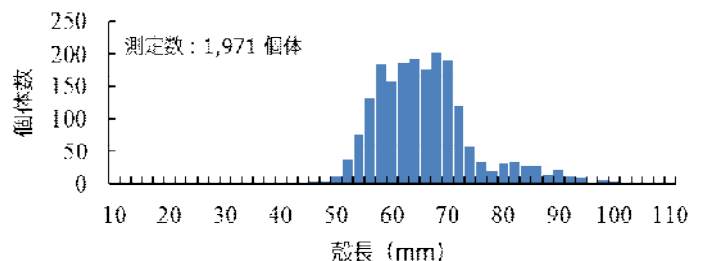


図2 採集された鹿島灘はまぐりの殻長組成

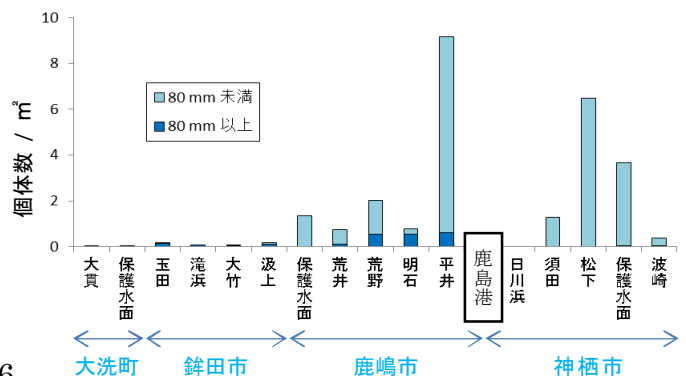


図3 鹿島灘はまぐりの地先ごとの平均分布密度

【次号予告】 H30.11.27 発行の水産の窓は「秋サバ漁況・水産物フェア」を予定しています。